

榕城小学校 いじめ防止基本方針

令和5年3月改正

はじめに

本校の「榕城小学校いじめ防止基本方針」（以下「学校基本方針」という。）は、いじめ防止対策推進法の規定に基づき、本校におけるいじめの防止等のための対策を効果的に推進するために策定する。

1 いじめの防止等の対策に関する基本理念

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利及び基本的人権等を著しく侵害し、児童の心身の健全な成長を阻害し、人格の形成に重大な危険を生じさせるものである。また、いじめはどの児童にも、どの学校にも起こる可能性があり、どの児童も被害者と加害者の両方になり得るといふ危険性ははらんでおり、全ての児童に関する問題である。そのため、いじめの防止等の対策は、全ての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

また、全ての児童がいじめを行わず、いじめを認識しながら放置することがないよう、いじめの防止等の対策は、いじめが、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、児童が十分に理解できるようにすることを旨としなければならない。

加えて、いじめの防止等の対策は、いじめを受けた児童の生命・心身を保護することが特に重要であることを認識しつつ、学校、地域住民、家庭その他の関係者の連携の下、いじめ問題を克服することを目指して行われなければならない。

2 いじめの防止等に関する基本的な考え方

(1) いじめの定義

「いじめ」とは、児童に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネット等を通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法第2条より）

(2) いじめ防止に向けての基本的な考え

いじめは「どの学校・学級でもおこりうるもの」「どの子も被害者にも加害者にもなりうるもの」「学校内に限らずいろいろな場で起こりうるもの」という基本認識に立ち、全ての児童が安全で安心して学校生活を送る中で、様々な活動に意欲的に取り組み、一人一人の個性や能力を十分に伸長することができるよう、いじめのない学校づくりに全力で努めていかななければならない。

けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合も考えられるため、調査や教育相談等も行い、いじめに該当するか否かを判断していく。もしいじめに当たると判断した場合でも、学校が「いじめ」という言葉を使わず指導するなど、その指導全てが厳しい指導を必要とする場合であるとは限らないことも留意する。

本校では家庭、地域社会、関係諸機関との連携のもと、いじめの未然防止及び早期発見に取り組み、いじめがある場合は適切かつ迅速にこれに対処するため、「いじめ防止基本方針」を定める。

3 いじめの未然防止のための取組

いじめはどの学級でも、どの児童にも起こりうるという事実を踏まえて、全ての児童を対象にいじめに向かわせないための未然防止に取り組む。

(1) 教職員による指導

- ① 日常的にいじめ問題に触れ、「いじめは人として絶対に許されない行為である」ということを、児童一人一人の心に深く刻み込む指導を行う。
- ② 学級経営の充実
 - ・ 達成感、充実感、所属感など児童自身が自分やクラスの高まりを実感できる具体的な学級目標の設定とその推進
 - ・ ルールが守られ、秩序があり、安心・安全が保障された学級づくり
 - ・ 教師と児童、児童と児童との間に、心のつながりのある関係(リレーション)づくり
- ③ 分かる授業づくり（学力の保障）
 - ・ 基礎的・基本的事項の確実な習得

- ・ 児童が主体的に取り組むことができる課題づくり
- ・ お互いの交流を通して、さらに自分の学びを高めることのできる雰囲気作り
- ・ 学びをふり返り、成長した自分の姿を自覚できる授業づくり
- ・ 支援を必要とする児童に対するきめ細やかな個別指導の充実
- ④ 道徳科の授業の充実
 - ・ 友情・信頼、親切・思いやり、生命の尊さ、相互理解・寛容などの情操や道徳心の向上
 - ・ 議論する場や自分の意見を主張する場などを通し、自他の存在を等しく認めたり、お互いの人格の尊重したりと人間関係を構築する能力の素地づくり
- ⑤ 職員の資質向上
 - ・ いじめを絶対に許さないという確固たる信念
 - ・ いじめを防止するための具体的な指導力や判断力を高めるための、教職員の資質向上に向けた適切な研修等の実施
- ⑥ 児童の自己有用感や自己肯定感の育成
 - ・ 全ての教育活動を通して、児童が主体的に行動し、他者の役に立っているという自己有用感や、自分自身のよさを認め、自分は大切な存在であると思える自己肯定感を高める。
 - ・ 全校朝会等での表彰式や学校だより、学級だより等を利用し、児童の頑張りを多くの児童・保護者等に紹介し、自己有用感を高める。
 - ・ 学級会や帰りの会等で、その日ががんばった児童などを互いに賞賛し合う場を設定し、互いのよさを認め合う雰囲気作りに努める。
- (2) 児童による主体的な取組
 - ・ 児童会活動等で主体的な取り組みと話し合いを推進する。
 - ・ 生活委員会による登校時の「あいさつ運動」の実施
 - ・ 「人権標語」及び「人権作文」等への啓発及び校内への掲示
 - ・ 人間関係を深める異年齢交流を推進する。
 - ※ 学校行事、児童集会によるふれあい活動等を中心に
 - ※ 縦割り班による清掃活動
 - ・ 各クラス「みんなで遊ぶ日」等を設定し、クラスの友達とのコミュニケーションを図る場を設ける。
- (3) 児童に培う力とその方策

【培う力】

 - ・ 相手の気持ちや周囲の気持ちを適切に読み取るコミュニケーション能力
 - ・ 自己有用感、自己肯定感
 - ・ さまざまな状況への対応力
 - ・ ストレス等を適切に対処する力（ストレスマネジメント）
 - ・ 助けを求めたり、相談できる力
 - ・ 「人権」についての正しい知識と意識

【そのための方策】

 - ・ 児童一人一人を大切にしたり分かりやすい授業づくり
 - ・ 道徳教育や人権教育の充実
 - ・ 道徳的実践活動、総合的な学習の時間、体験的活動などの推進
 - ・ 児童一人一人が活躍できる学校行事等の推進
 - ・ 主体的に取り組む活動を通して、困難な状況を乗り越える体験の機会の設定
- (4) 職員によるいじめについての共通理解
 - ・ 校内研修や職員会議で学校の基本方針の周知を図り、「人権月間」や「いじめ問題を考える週間」等で、児童を対象にいじめに関する講話等を行う。
 - ・ 児童及び保護者の教育相談を毎週金曜日放課後に位置づけ、情報の共有化を図る。
 - ・ いじめ問題や「見つめる」「思いをめぐらす」「向き合う」といった児童に関わるための基本的な姿勢について正しい共通認識を持ち、適切な対処が行われるよう教員研修等を通して理解を深める。
- (5) 外部関係機関との連携
 - ・ 学年・学級 P T A 活動に担任及び諸職員が参加し、必要な情報を収集し、いじめ発生防止に努める。
 - ・ 保護者同士のコミュニケーションがより図れるよう適切な P T A 活動を進める。
 - ・ 各関係機関と連絡を取り合い、学校内外における児童の情報収集に努める。また、必要に応じて情報の共有化を図る。

4 いじめ防止のための組織と具体的な取組

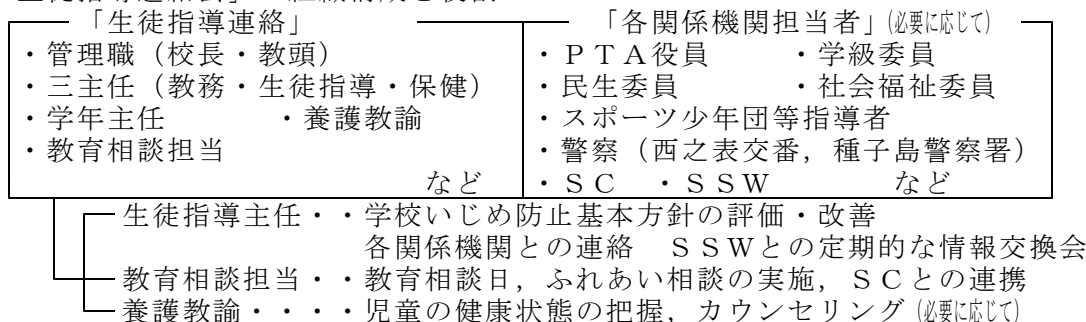
(1) 「生徒指導連絡会」の設置

いじめ未然防止及び早期発見・早期対応の取組を実効的に行うために、校長、教頭、三主任（教務、生徒指導、保健）、学年主任、教育相談担当、養護教諭等で構成する「生徒指導連絡会」を設置し、月1回、定期的に開催する。

また、必要に応じて各関係機関担当者も交え、委員会を開催する。

緊急を要する場合は、上記の日程に限らず「生徒指導連絡会」を開催する。

(2) 「生徒指導連絡会」の組織構成と役割



(3) 学校の取組状況の評価と検証

「生徒指導連絡会」および「生活指導部会」において、学校基本方針に基づくいじめ問題等への取組状況の評価するとともに、いじめ問題等への効果的な対策が講じられているかどうかを検証し、検証の結果を指導の改善に生かすようにする。

(具体的な取組)

- ・学校基本方針に基づく取組の実践や計画の作成・実行・検証・修正等
- ・いじめ等の相談・通報の窓口としての対応
- ・いじめに関する情報や児童の問題行動等に係る情報の収集と記録
- ・いじめの情報の迅速な共有，関係児童への事実関係の聴取，指導や支援体制
- ・対応方針の決定
- ・保護者及び各関係機関との連携の対応

5 いじめ早期発見のための取組

(1) いじめ問題に対する学校の取組の充実のため、鹿児島県教育委員会作成「いじめ対策必携」等の活用を徹底する。

(2) 定期的なアンケート調査や教育相談の実施，また日常における観察等による声かけを実施し，個別の状況把握に努める。

※ 「学校楽しいーと」「SNSチェックシート」等のアセスメントの活用

(3) 「いじめ・不登校問題を考える週間」を設定し，学校，家庭，地域を挙げていじめをなくす取組を行う。

(4) 児童や保護者等が不安や悩み等の相談を，抵抗なくできるよう教育相談やふれあい相談等を実施するとともに，スクールカウンセラー等の活用によるいじめ早期発見の体制の充実に努める。

(5) 毎月生徒指導連絡会及び，週2回の職員朝会等に「気になる児童への取組」の場を設け，児童の実態に関する情報交換を行い，全職員で児童を見守っていく体制を作る。

6 いじめへの早期対応

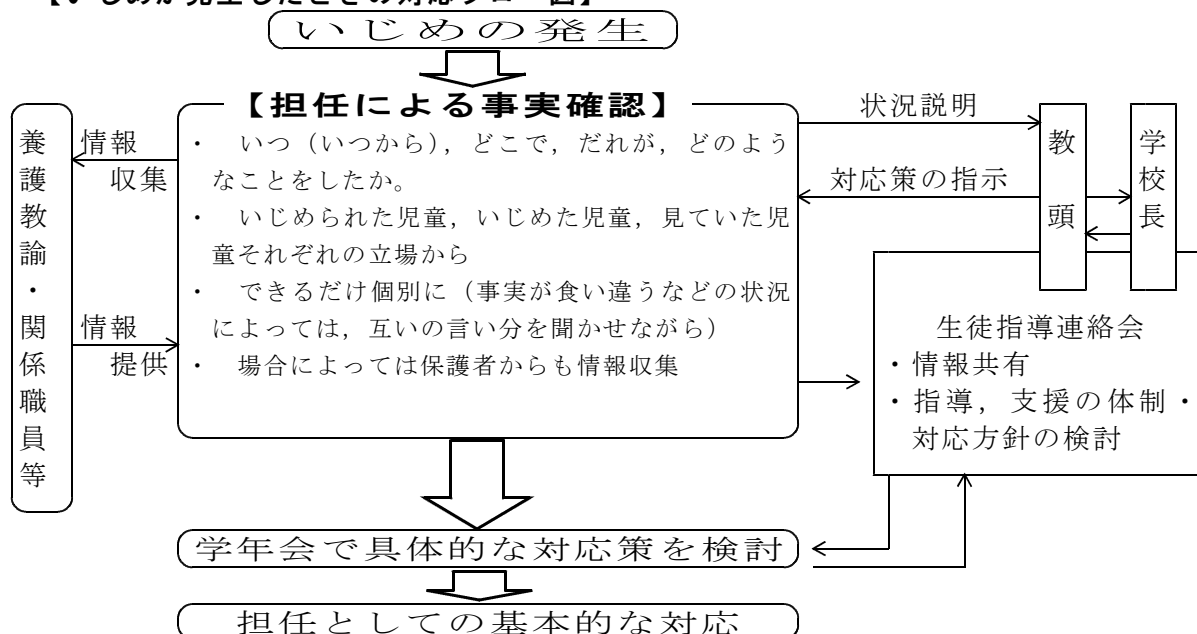
(1) いじめを発見した場合及びいじめに関わる相談を受けた場合は，他の業務に優先して，即日，速やかに事実の有無の確認を組織的に行い，その結果を管理職に速やかに報告する。また，市教育委員会へ報告する。生徒指導連絡会を開催し，情報の共有と指導，支援の体制・対応方針を決定し，実施する。

※ 学校の特定の教職員が，いじめに係る情報をかかえ込み，報告を行わないことは，**法第23条第1項の規定に違反し得る**という認識をもつ。

(2) いじめの事実が確認された場合は，いじめを受けた児童やいじめを知らせてきた児

- 童の安全を最優先に考えるとともに、いじめを受けた児童・保護者への支援といじめを行った児童・保護者への指導・助言を継続的に行う。
- (3) 必要に応じて、スクールカウンセラーや臨床心理相談委員などを活用し、いじめを受けた児童の心のケアに努める。
 - (4) 学校がいじめの事実が確認した場合において、必要があると認めるときは、いじめを受けた児童が安心して教育を受けられるようにするために、いじめを行った児童に対して教室以外の場所において学習を行わせる等の措置を講ずる。
 - (5) いじめの関係者間における争いが起きることがないようにいじめの事案に係る情報を関係保護者と共有するための措置を講ずる。
 - (6) 専門的な支援などが必要な場合には、市教育委員会、児童相談所や警察等の関係機関へ相談し、適切な連携を図る。
 - (7) いじめを行っている児童の周りで一緒になって見ていることや、気付いていても何もしないなどは、いじめの行為と同じことであることを理解させる。

【いじめが発生したときの対応フロー図】



【担任としての基本的な対応】

- ① いじめられている児童に対して
 - ・ 自ら訴えたことを褒め、何があっても全力でいじめから守ることを約束する。
 - ・ いじめられた内容やつらい思いなどを親身になって聞くとともにいじめを解決する方法について一緒に考える。
 - ・ 活動の場を作り、認め励ますことによって、自己有用感、自己肯定感を高める。
- ② いじめている児童に対して
 - ・ 「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、まずいじめをやめさせる。
 - ・ いじめられている児童の気持ちに着目させ、いじめることが相手の心をどれだけ傷つけ、苦しめているのかということに気づかせる。
 - ・ いじめてしまう気持ちを聞き、心の安定を図りながら、教師との信頼関係を作る。
 - ・ 学級の係や当番活動、学校行事等での具体的な場での、よい行動を積極的に見つけ褒めることで、自己有用感や自己肯定感を高めていく。
- ③ 学級全員に対して
 - ・ いじめを発見したら先生や友だちにすぐに知らせ、すぐにやめさせることを徹底する。
 - ・ 見て見ぬふりをするはいじめを助長することになることに気付かせる。
 - ・ 友だちの言いなりにならず、自らの意志で行動することの大切さに気付かせる。
 - ・ 一人一人がかけがえのない存在として尊重され、安心して生活する権利を持って

いることに気づかせ、温かい友人関係を築くようにさせる。

- ④ 保護者に対して
- ・ 積極的に家庭へ出向き、保護者の悩みや気持ちを受け止め、学校との信頼関係を深める。
 - ・ 事実を正確に伝え、家庭での対応の仕方、学校への連絡の仕方等を助言する。

7 ネットいじめへの対応

(1) ネットいじめとは

文字や画像を使い、特定の児童の誹謗中傷を不特定多数のものや掲示板等に送信することや、特定の児童になりすまし、社会的信用を貶める行為をすること、掲示板等に特定の児童の個人情報に掲載することなどがネットいじめに該当し、犯罪行為に当たる。

(2) ネットいじめの予防

- ・ フィルタリングや保護者の見守りなどについて、啓発を図る。
- ・ 教科や学級活動等における情報モラル教育の充実を図る。
- ・ インターネット利用に関する職員研修等を実施する。

(3) ネットいじめへの対応

- ・ 被害者からのうったえや閲覧者及びネットパトロールからの情報により、ネットいじめの把握に努める。
- ・ ネット上の不適切な書き込み等については、直ちに削除する措置をとる。名誉毀損やプライバシー侵害等があった場合、プロバイダに対して速やかに削除を求め、必要に応じて法務局等の協力を求める。
- ・ 児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに警察署に通報し、適切に援助を求める。

8 重大事態への対処

いじめにより当該児童の「生命、心身等又は財産等に重大な被害」が生じた疑いがある場合には、次の対処を行う。

(1) 重大事態が発生した場合は、直ちに事態発生について市教育委員会に報告する。

- ・ 児童が自殺を企図した場合
- ・ 身体に重大な障害を負った場合
- ・ 金品等に重大な被害を被った場合
- ・ 精神症の疾患を発症した場合

(2) 市教育委員会と調査主体や調査組織について協議した上で、当該事案へ対処する組織を設置する。

(3) 上記組織を中心として、当該事案についての客観的な事実関係及び再発防止のための調査を行う。

- ・ いつ（いつ頃から） ・ どこで ・ 誰が ・ 何を、どのように（態様）
- ・ なぜ（人間関係の状況や学校の対応に関する課題など）

- ・ いじめられた児童の学校復帰を最優先とした調査
- ・ いじめられた児童及びその保護者に対して、調査方法や調査内容について、十分説明し、合意を得る
- ・ 情報を提供してくれた児童等の安全確保
- ・ インターネット上のプライベートに関する情報拡散・風評被害が起こらないよう留意（学校ネットパトロール事業などを活用する）

(4) 調査を実施する場合には、各調査主体が密接に連携し、調査対象となる児童への心理的な負担を考慮しながら実施する。

- ・ 臨床心理相談員、SCを派遣し、心のケアを図る。（必要な期間継続して行う）
- ・ 担任、教育相談係、児童支援員等による聴き取り

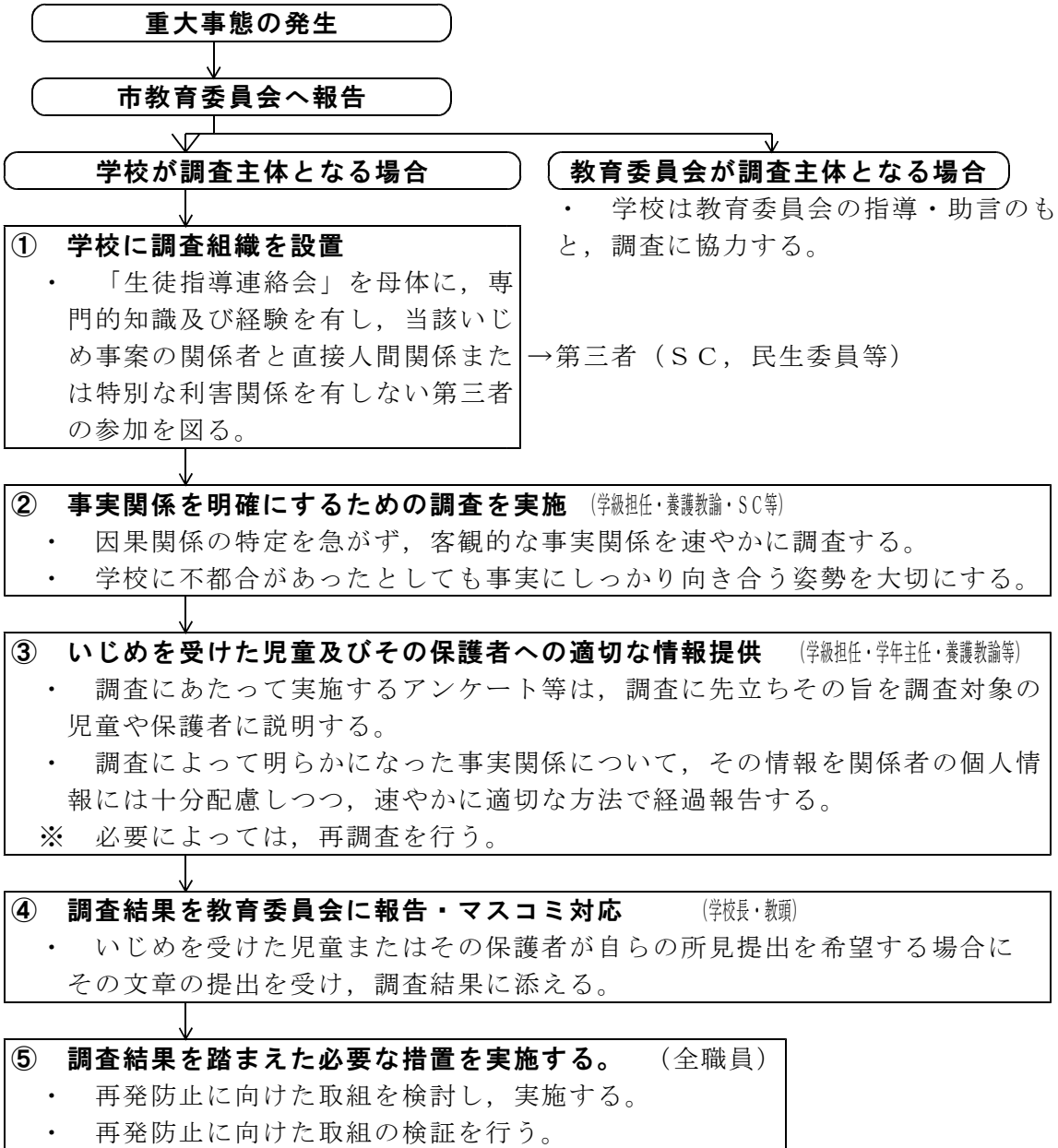
(5) 当該事案に係る調査結果については、いじめを受けた児童及び保護者に対し、当該調査に係る事実関係等その他必要な情報を適切に提供する。

(6) 報道取材等への対応については、プライバシーへの配慮を十分に行い、事実に基づいた、正確で一貫した情報を提供するために教頭を窓口として、市教育委員会と十分連携を図りながら対応する。

【関係機関連絡先】

・西之表市教育委員会学校教育課	0997-22-1111 (内線255)
・種子島警察署	0997-22-0110
西之表交番	0997-23-0409
・市青少年補導センター	0997-22-1111 (内線258)
・県中央児童相談所	099-264-3003
・県総合教育センター教育相談課	099-294-2200

【重大事態の対応フロー図】



9 その他

- (1) 「榕城いじめ防止基本方針」を、学校のホームページで公表し、児童一人一人のいじめ防止への理解と認識を深め、実践への意欲を喚起する。
- (2) 学期末に、定期的な点検・見直しを行い、これに基づいた必要な措置を行い、学校いじめ基本方針の改善を図っていく。